

JHF REPORT



梅雨明けして夏到来の石垣島にて 撮影:大城絵里

2014年度JHF通常総会を開催しました

6月17日(火)、東京都渋谷区の東京体育館第1会議室において、全国から46正会員(都道府県連盟)の出席(委任状2会員、議決権行使4会員を含む)を得て、2014年通常総会を開催しました。

議題は以下のとおりです。

- 報告事項1:2013年度事業報告
- 報告事項2:2013年度決算報告・監査報告
- 決議事項1:貸借対照表及び損益計

算書(正味財産増減計算書)の承認

報告事項3:2014年度事業計画

報告事項4:2014年度収支予算

決議事項1は正会員によって承認されました。

報告および決議終了後、日本学生フライヤー連盟から「フライヤーアンケート」の結果報告(次号に掲載の予定)もありました。

総会の議事録はJHFウェブサイトの「情報公開」ページに掲載します。ま

た、2013年度事業の報告は次ページでご覧ください。



6月17日の通常総会で2013年度事業が報告された。



FOR ALL SPORTS OF JAPAN
JHFレポートはスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています

自分の力を客観的にとらえて安全に

夏休みシーズン到来。フライトツアーや計画を立ててワクワクしている方も多いでしょう。どのエリアでも事前にルールを理解してからフライトを。また自分の力を過大評価せず十分な安全マージンを。熱中症対策もお忘れなく。

JHFの2013年度の事業

「公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟2013年度事業報告」より

2013年度、2013年4月から2014年3月の1年間にJHFが取り組んできたさまざまな事業を報告します。

I 概要

2013年度は、日本人選手がパラグライディングワールドカップの総合部門と女子部門で優勝し、パラグライダーの直線飛行距離の日本記録が更新されるなどの日本人フライヤーの活躍がありました。JHFでは、普及と安全のための取り組みとして、パラグライディング教本DVD「テイクオフ＆ランディング」の販売を開始し、ハンググライダーのベテランパイロットを対象としたブラッシュアップセミナーを4回、開催しました。しかし、パラグライダーの事故の映像がテレビに流れるという社会的に重大な事故も発生してしまいました。

ハンググライダーもパラグライダーも技能証の発行数は若干増加していますが、フライヤー高齢化等による自然減を補うには至らず、有効フライヤー会員数は僅かに減少しています。

日本の1970年代ハンググライダー黎明期からのハンググライダー・パラグライダーの歴史編纂事業を開始し、一般財団法人日本航空協会の航空亀齢賞を受賞された阿部郁重先生を囲み、日本のハンググライディング界の創始者たちの座談会を開催し録画しました。

1. 収支の現状

JHFは公益法人化後、積み上がっている財産を健全に費消し、公益事業の規模に見合った会計が求められるフェーズにあります。今年度の決算では、単年度の収入と支出の差し引きでは赤字となりました。支出は前年度に比べた場合、教員検定員の集合教育に費用追加している程度で、赤字は主に前年に比べてフライヤー会員会費が減収したことによります。

JHFは、あと2年ほどは、この程度の単年度赤字の事業推進をすることができる体質にあります。その間に、愛好者数を再び増加に転じさせるような事業に投資しなければいけません。今年度の赤字は、健全な財産減少の過程と考えており、当面支出を抑制する必要は

ありません。しかしフライヤー数が横ばいのままなら、数年後には収入に見合った事業に絞って活動する時代を迎えることになります。中長期的な展望としては、フライヤー会員登録の第三者賠償責任保険を消滅させないように、大きな損害率を穴埋めするための保険料負担の増額を続けています。財務的にも、今後3年間が正念場と言えます。

2. 普及振興事業の実施等

- 1) JHFパラグライダー教本の教育課程に沿って基礎技術を映像で提供するため、「テイクオフ＆ランディング」のDVDを制作しました。
- 2) ハンググライダーパイロットを対象に、セーフティー・トeingによるブラッシュアップセミナー(安全セミナー)を4回開催しました。
- 3) 教員検定員により、教員・助教員の知識、技能の維持向上を行うことによって、JHFフライヤー会員へ安全フライトに関する啓蒙活動を推進するために、教員助教員更新講習会を各地で開催し(16ヶ所)133名が受講しました。
- 4) 教員検定会にて、4名(PG)が新しく教員になりました。
- 5) 教員検定員研修検定会を実施、検定員候補者34名が参加しました。

3. 特記事項

- 1) 第36回鳥人間コンテスト選手権大会を協賛 7月27日(土)～28日(日)
滋賀県彦根市松原水泳場周辺
- 2) 第19回スカイスポーツシンポジウムを協賛 11月30日(土) 日本大学理工学部・駿河台校舎
- 3) パラグライダー日本記録の直線距離(一般部門、女性部門)を更新
平木啓子選手の直線距離332km(ブラジル・キシャダヘピリピリ)の記録が一般財団法人日本航空協会により承認

II 事項別状況

1. 組織

- 1) 会員数
正会員 47名
フライヤー会員 8,499名
(2014年3月末有効登録数)
賛助会員 12名

- 2) 役員構成(2014年3月末現在)
理事 9名
(うち会長1名、副会長2名)
監事 2名

2. 会議等の開催

- 1) 総会

□2013年6月通常総会
開催通知 2013年4月25日(木)
開催日時 2013年6月18日(水)
11:00～17:00
開催場所 東京体育館 第一会議室 (東京都渋谷区千駄ヶ谷)
議案
報告事項1:2012年度事業報告について
報告事項2:2012年度決算報告について
決議事項1:貸借対照表及び損益計算書の承認について
報告事項3:2013年度事業計画について
報告事項4:2013年度収支予算について
決議事項2:JHF役員選任について
- 2) 理事会

□第1回理事会			
5月14日 出席:理事6、欠席:監事1			
□第2回理事会			
7月12日 出席:理事9、監事2			
□第3回理事会			
9月6日 出席:理事9、監事2			
□臨時理事会			
9月20日 出席:理事8、監事1 欠席:理事1、監事1			
□第4回理事会			
11月19日 出席:理事9、監事1 欠席:監事1			
□第5回理事会			
1月28日 出席:理事8、監事2 欠席:理事1			
□第6回理事会			
3月11日 出席:理事9、監事1			
□文書理事会			
4月15日、17日、5月21日、6月6日 (2件)、14日(2件)、17日、7月23日、29日、8月12日、26日、11月7日、1月10日、 2月14日、3月4日、18日、20日			
3) 委員会 <table border="0"><tr><td>□ハンググライディング競技委員会 競技会開催時に実施</td></tr><tr><td>□パラグライディング競技委員会 競技会開催時に実施、1月20日</td></tr><tr><td>□補助活動委員会</td></tr></table>	□ハンググライディング競技委員会 競技会開催時に実施	□パラグライディング競技委員会 競技会開催時に実施、1月20日	□補助活動委員会
□ハンググライディング競技委員会 競技会開催時に実施			
□パラグライディング競技委員会 競技会開催時に実施、1月20日			
□補助活動委員会			

10月22日、12月6日
 □教員・スクール事業委員会
 10月8日、11月26日、12月10日、1月21日
 □安全性委員会
 6月20日、10月8日、11月26日、12月10日、1月21日
 □制度委員会
 □ハングバラ振興委員会
 □役員選任実行委員会
 5月9日
 □委員長理事合同会議
 3月4日
 *上記のほか電子メール会議を実施し、経費削減に努めた。

3.事業の実施状況

- 1) 普及振興活動
 - JHFレポートを発行(4月、7月、10月、1月)*独立行政法人日本スポーツ振興センター・スポーツ振興くじ助成を受け発行しています。
 - 都道府県連盟事業費の交付
 - 日本学生フライヤー連盟へ助成金交付
- 2) フライヤー会員登録

登録数:2013年度 5,841人(新規・更新)
(2012年度 6,146人)
- 3) 技能証発行
 - HG:228枚(2012年度157枚)
 - PG:1,111枚(2011年度1,031枚)
 - MPG:35枚(2011年度25枚)
 - レスキューリパック認定証 136枚
- 4) 競技会の主催・公認・後援

□HG:13件(うちFAIカテゴリー1・2:2件)
 □PG:31件(うちFAIカテゴリー1・2:3件)
 □HG・PG同時開催:8件
 5) 競技会の開催

- HG:
 - ・日本選手権
2013年8月14日～18日
岐阜県池田山エリア 参加73人
日本選手権者:鈴木博司
女子日本選手権者:磯本容子
・ハンググライディングシリーズ
総合1位:鈴木博司
女子1位:磯本容子
・ハンググライディングXCリーグ
第1位:砂間隆司
 - PG:
 - ・日本選手権
2013年9月20日～23日
茨城県足尾山エリア 参加65名
日本選手権者:植田真吾
女子日本選手権者:平木啓子
・アキュラシージャパンリーグ
2013年9月28日～29日
山形県十分一山エリア 参加31名
日本選手権者:横井清順
女子日本選手権者:東武瑞穂
・ジャパンリーグ(参加人数96名)
オープンクラス 1位:植田真吾
女子1位:伊藤弥生
スポーツクラス 1位:村上修一
女子1位:井川絵美
・ジャパン2リーグ(参加人数23名)
総合1位:村上修一

女子1位:川名美江
 ・クロスカントリーリーグ(83本)
 1位:加藤 豪
 最長フライト:岩崎拓夫(160.2km)
 ・アキュラシージャパンリーグ(参加人数42名)
 スクラッチクラス 1位:吉富周助
 女子1位:東武瑞穂
 ハンディキャップクラス 1位:伊藤まり子 女子1位:伊藤まり子
 ルーキークラス 1位:臼井紀人
 6) スクール・エリア情報の収集及び公開

- スクールサイト登録校 148件(うち新規登録校4件)
- エリア情報掲載 176件

7) 海外関係団体活動

- CIVL総会 2014年2月20日～23日
インドネシア 出席者:デレゲイト岡芳樹、オブザーバー 北野正浩
- 8) 世界選手権へのチーム派遣
 - 第13回パラグライディング世界選手権
参加選手:6名 2013年7月13日～26日 ブルガリア ソ波特
 - 第7回パラグライディングアキュラシーワールド選手権
参加選手:7名 2013年8月17日～25日
 - 第2回パラグライディングアキュラシーアジア選手権
参加選手:7名 2014年3月12日～19日
- 9) その他
 - 機体型式登録 12件(PG)
 - 機体情報登録 0件(PG)

2013年度の委員会活動

JHFの事業は、各委員会の活動によって支えられています。以下は、2014年総会に提出された2013年度委員会活動報告補足です。(事業報告と一部重複します。また、委員長名は2013年度時のものです。)

ハンググライディング競技委員会

委員長:板垣直樹

- 1) WEB登録によるエントリーの簡素化
- 2) 委員会ホームページの運営
大会公認案内、エントリー案内等の更新は隨時実施。
- 3) 2013年日本選手権開催(池田山)
8月14日～18日 73名参加 タスク5本成立 日本選手権者:鈴木博司
女子日本選手権者:磯本容子
- 4) ハンググライディングシリーズ管理運営

参加人数83名 1位:鈴木博司 2位:平林和行 3位:加藤実 女子1位:磯本容子
 5) ハンググライディングXCリーグ管理運営
 1位:砂間隆司(188.88km) 2位:氏家良彦(169.14km) 3位:田中猛(167.44km)

パラグライディング競技委員会

委員長:岡芳樹

- 1) ルールブックの改訂
- 2) WEB事務局・ホームページ管理
- 3) 第13回パラグライディング世界選手権(ブルガリア、ソ波特:7月13日～26日)へ選手派遣(男子4名、女子2名。
吳本圭樹、上山太郎、成山基義、中川喜昭、伊藤弥生、以上チームメンバー、個人参加で平木啓子)

総合1位:ジェレミー・ラジャー(フランス)、2位:シャルル・カゾー(フランス)、3位:ダヴィデ・カセッタ(イタリア)、11位:呉本、24位:上山、92位:平木、130位:伊藤、143位:成山
 女子1位:クラウディア・ブルガコフ(ポーランド)、2位:福岡聖子(フランス)、3位:ニコル・フェデレ(イタリア)、6位:平木、11位:伊藤

国別1位:フランス、2位:イタリア、3位:ヴェネズエラ、15位:日本

4) 第7回パラグライディングアキュラシーワールド選手権(ボスニア・ヘルツエゴビナ、サラエヴォ:8月17日～25日)へ選手派遣(男子5名、女子2名 岡芳樹、横井清順、古賀光晴、吉富周助、古田岳史、内田薰、伊藤まり子)

総合1位:シェン・グアン・キアン(中

国)、2位:ヤカ・ゴレンチ(スロベニア)、3位:トマス・レデニク(チェコ)、16位:吉富、18位:古賀、21位:横井、47位:岡、56位:伊藤、53位:古田、67位:内田
女子1位:メリツア・マリンコヴィッチ(セルビア)、2位:リマンテ・ヴェルビライテ(リトアニア)、3位:ヨランタ・ラマネンコ(リトアニア)、7位:伊藤、13位:内田
国別1位:チェコ、2位:ブルガリア、3位:セルビア、5位:日本
5)第2回パラグライディングアキュラシーアジア選手権(マレーシア、ラナウ:3月12日~19日)へ選手派遣(男子5名、女子2名 岡芳樹、横井清順、古賀光晴、吉富周助、水野良信、東武瑞穂、伊藤まり子)
総合1位:タナパット(タイ)、2位:マ・チャン(中国)、3位:マ・レイ(中国)、5位:吉富、7位:岡、9位:東武、10位:水野、14位:古賀、16位:横井、19位:古田、39位:伊藤
女子1位:ヌナパット(タイ)、2位:東武、3位:チャンティカ(タイ)、10位:伊藤
国別1位:タイ、2位:日本、3位:中国
6)Jリーグ、J2リーグ、XCリーグ、AJリーグ管理
・Jリーグ結果(参加人数96名)
オープんクラス 1位:植田真吾、2位:成山基義、3位:岩崎拓夫
オープんクラス女子 1位:伊藤弥生、2位:平木啓子、3位:井川絵美
スポーツクラス 1位:村上修一、2位:井川絵美、3位:田中健
スポーツクラス女子 1位:井川絵美、2位:中目みどり、3位:高田奈緒
・J2リーグ(参加人数23名)
総合 1位:村上修一、2位:碓井伸彦、3位:川名美江
女子 1位:川名美江、2位:田村康子、3位:橋本みさ紀
・XCリーグ(25名、83本)
1位:加藤豪(447.5km)、2位:岩崎拓夫(399.9km)、3位:二三四藤昭(335.7km)
最長フライト:岩崎拓夫(160.2km)
・AJリーグ(参加人数42名)
スクランチクラス 1位:吉富周助、2位:横井清順、3位:東武瑞穂
スクランチクラス女子 1位:東武瑞穂、2位:伊藤まり子、3位:内田薰
ハンディキャップクラス 1位:伊藤まり子、2位:臼井紀人、3位:丹野慶太郎
ハンディキャップクラス女子 1位:伊藤ま

り子、2位:柳井維都花、3位:内田薰
ルーキークラス 1位:臼井紀人、2位:小松理樹、3位:鈴木洋史
7)2013年度日本選手権開催(茨城県石岡市足尾山エリア:9月20日~23日)
タスク3本成立/4日 65人参加 規定により日本選手権として成立
総合1位:植田真吾、2位:多賀純一、3位:成山基義、4位:武貞伸明、5位:山口翔、6位:廣川靖晃
女子1位:平木啓子、2位:伊藤弥生、3位:井川絵美
スポーツクラス1位:村上修一、2位:井川絵美、3位:関根靖明
スポーツクラス女子1位:井川絵美、2位:中目みどり、3位:橋本由美
8)2013年度アキュラシー日本選手権開催(山形県南陽市十分一山エリア:9月28日~29日)
6ラウンド成立 31人参加 規定により日本選手権として成立
総合1位:横井清順、2位:東武瑞穂、3位:吉富周助、4位:岡芳樹、5位:伊藤まり子、6位:菅野剛広
女子1位:東武瑞穂、2位:伊藤まり子、3位:菊田久美
ハンディキャップ1位:伊藤まり子、2位:丹野慶太郎、3位:矢野啓
ハンディキャップ女子1位:伊藤まり子、2位:菊田久美、3位:及川望

安全性委員会

委員長:桂敏之

- 1) 運用経費の圧縮と効率的な運用を目的として、委員会の開催はメール通信による稟議で行った。
- 2) JHFウェブサイトにおいて、安全管理情報の普及に役立つ事例集をブログリンク形式で掲載するために、ブログ業者の選定などの作業を行い、ハンググライダーに関する情報を掲載したものを試行した。ハンググライダー整備表の試行運用を開始している。
- 3) 安全セミナー開催のためのプログラム作りに参加した。
- 4) DHV・パラグライディングアカデミー社等への訪問・調査を行った。
- 5) ハンググライダーパイロットを対象にブッシュアップセミナーを開催した。
- 6) 事故調査と報告書の提出
- 1通作成
- 7) 事故情報データベースの継続整備

教員・スクール事業委員会

委員長:岩橋亘

- 1) 教員検定会 PG 4名
- 2) 教員助教員更新講習会 16箇所133名受講
- 3) 補助動力テキスト作成についての検討(補助動力委員会と合同)
- 4) 教員検定員研修検定会の調整
- 5) レスキューパラシュートリパック認定証についての見直し(安全性委員会と合同)同認定証検定のテキストと試験問題を改定
- 6) 安全セミナープログラムの作成(安全性委員会と合同)
- 7) インストラクターマニュアルの整備を目的に公益財団法人日本体育協会の指導者用テキストIとIIをJHF教員指導体系に導入

制度委員会

委員長:小林秀彰

- 1) JHFに関わる制度の定款、規約、規程、規則等の文書管理
- 2) 役員選任委員会への助言
- 3) フライヤー会費規程の改定
- 4) 新理事へのJHF制度と理事の法的責任の説明
- 5) 技能証規程の一部改訂
助教員検定を助教員検定員、教員検定員ができるように改定／リパック認定証の改定
- 6) 補助動力副読本の作成に参加
MPG技能証規程の改定検討／但馬合意の確認
- 7) オールドパイロット講習会の諮問に対する答申

補助動力委員会

委員長:須藤彰

- 1) 3月 関西方面トーリング見学
- 2) 4月 補助動力副読本写真撮影
- 3) 6月 委員会(副読本編集他)
- 4) 7月 苦情対応(騒音苦情愛知県・死亡事故あり)
- 5) 11月 下総航空基地安全会参加
- 6) 12月 委員会(副読本編集他)
- 7) 重大事故発生時の連絡調査

ハングパラ振興委員会

委員長:芦川雄一郎

- 1) パラグライダー・パンフレット作成
- 2) パラグライダー・プロモーションDVD作成
- 3) ウェブ更新

2014-2015年度の委員会活動

JHF常設委員会委員の任期は2年間です。2014年4月1日から新たに理事会で選任された委員(継続委員も多数)による活動が始まっています。委員の互選で決まった7人の委員長に活動の抱負などを聞きました。

ハンググライディング競技委員会

委員長 板垣直樹

目標、抱負は、毎年のことですが競技の質の向上。これは競技のレベルを上げるだけでなく参加選手の増加、事故の軽減、選手の技術向上です。

ハンググライダーは近年、機体の安全性の向上とともに高速性能と滑空性能が上がり、欧米などのように広いランディング場を持たない日本では、競技中のアウトランディング等を防止するためにパイロットの判断、技術、経験が非常に重要になります。

競技委員会では毎年のルーティンに加え、選手のフライト技術、ランディング技術の向上のために大会毎にセミナーを開催したいと考えています。

また、競技指導者の育成ができるように準備を始めます。

パラグライディング競技委員会

委員長 岡 芳樹

Jリーグは徐々にではあるが新しい選手が参加するようになってきているので、このトレンドを継続していきたい。一方アキュラシーリーグは新しい選手の参加が今一つであるので、何とか活性化を図っていきたい。

また、大会開催場所が毎年同じにならっているので、新たなエリアでの開催を働きかけていきたい。競技委員会のホームページの更新がこれまでタイムリーでなく参加選手のやる気をそいできたことを反省し、よりタイムリーに更新して活性化していきたい。

安全性委員会

委員長 桂 敏之

空を飛ぶことで生じるリスクから一人一人のフライヤーを守り、安全にフライトを楽しんでもらえるよう、安全性委員会

は活動しています。そのために最新の安全情報の提供、事故の調査分析、機体の型式認定を行っています。本年度もすでに3年目となるDHVなどヨーロッパ諸国への訪問調査を行いました。

フライヤーの皆様にもさらに事故のリスクを減らすようにとの意識を持ち続けていただき、安全教育への参加、事故報告への協力をお願いします。

教員・スクール事業委員会

委員長 水野良信

「教員の育成とスクールの支援」が委員会活動の大きな柱です。

私は1987年にパラグライダー教員となりパラグライダー界の変遷を垣間見てきました。教員はJHFにとって大きな資産です。いつの時代にもフライヤーを発掘育成し続けてきました。JHFを支え続けているという自負心を持つ反面、教員の指導の仕方によっては多面的にみてバラツキがある事は否めない事実です。また多くの経験を持つ教員は、スクール・エリア環境に合わせそれぞれの「メソッド」を構築していますが、一スクール、一教員が行える限界も知っています。

JHFという組織でしか成し得ないことを、教員・スクールの意見を吸い上げ有効的な形にしていくのが委員会の務めと思っています。

制度委員会

委員長 小林秀彰

私のJHFの活動を振り返ってみると、1994年当時の教習検定委員会に参加し、1996年から制度委員会委員も兼任、現在は制度委員会委員長を務めさせていただいております。

委員就任の動機としては、当時の教員検定のいい加減さにありました。当時は規程、規約の根拠もなく検定員独自の判断で教員検定を行っていた時代でした。そこで、教習検定委員会で教員検定のルール作りを提案し、制度委員会で技能証規程の全面改訂作業に取り組みました。

JHFは公益社団法人として法律、定款、規約、規程、規則などのルールの下

で運営されています。制度委員会の主な仕事は、JHFのすべてのルール管理、時代に応じたルール改定、ルール作成です。地味ですが、委員4名で頑張っています。

補助動力委員会

委員長 須藤 彰

今年度の補助動力委員会では、基本となる補助動力の教本(パラグライディング教本の副読本)を出す予定です。これからまだまだ増えていく補助動力の会員のために、安全に事故のないフライトを願い、委員全員で作成したものです。

JHFはパラやハングでも行われているトーリングも補助動力の範囲に入ると考えており、トーリングの副読本を作ることも考え進めていく予定です。

まずは基本となる底辺作りから始める補助動力委員会にご期待ください。

ハングパラ振興委員会

委員長 井上 潔

当委員会は発足当時からの委員の大半が理事に就任したことに伴い、メンバーが一新しました。

愛好者数の減少傾向が深刻な問題になっています。新しい人を集めのも大切ですが、今飛んでいる人たちが安心して安全に飛び続けることができる環境を作ることはもっと重要です。

飛ばなくなる理由の多くは、怪我や事故に遭ったり見聞きしたことがきっかけという声も聞かれます。

新生ハングパラ振興委員会は、一度始めた人がスカイスポーツ人口として定着し、安心して安全に飛び続けられる環境作りにも取り組んでいきます。やめた人が戻ってきてくれることも期待されます。

また、学生で始めた人が卒業とともにやめてしまう例も多く、学連と連携して卒業後も飛び続けられる環境作りにも取り組んでいきます。

安全なフライトを継続するために

JHF安全性委員会 委員長 桂 敏之

夏のフライト要注意点

今年も暑い夏がやってきました。フライト活動における夏特有の危険性と、それに対処するための注意点をチェックしてみましょう。

暑さによる注意力の低下

暑さによる注意力や肉体的パフォーマンスの低下は、重大事故に直結します。地上で長時間、強い日差しや高い気温に体をさらしたり、ましてや体を動かしていると、いつもと同じ作業でも著しく体力を消耗し、注意力が低下してしまいます。

恐ろしい注意力の低下によって、普段なら考えられないようなハーネスの装着ミス、風の読み違え、とっさの修正操作の遅れなどが起きてしまうことがあります。

たとえば、ティクオフまでの移動や準備で強い日差しにさらされたままだったり、さらにちょっとした余計な作業でたくさん汗をかいてしまったりしていて、それなのに注意力や肉体的パフォーマンスの低下ということに対して意識が及ばず、ついそのまま頑張って飛ぼうとして、ティクオフで重大なミスを起こし、思いもよらない事故になってしまふというケースです。

このような状況は、個々のパイロットの能力や年齢によても異なり、また、同じ人でもその日の体調によっても変わってきます。いつもは平気だからと考えてはなりません。

熱中症

一般にも夏は熱中症への警告がよくされています。熱中症は最悪、死に至ることがあり、本人が気が付かないうちに起こっているものだということを忘れないでください。

暑さ対策・熱中症対策

暑さ対策の装備として、帽子と飲料水は必携です。そしてティクオフやランディング場で風通しの良い日陰を確保しておくことも大切です。

長時間、強い日差しや高い気温に体をさらしていくあまり気にならない場合もあります。油断せず、風通しの良い日陰で適切な休憩を取ってクールダウンしましょう。特にティクオフの準備において、暑さによる注意力の低下が重大事故に直結した例が多いことを意識してください。

熱中症対策としては、水分補給だけでなく、塩飴、機能飲料、梅干しなど塩分補給も大切です。また、のどが渴いたと感じなくとも、こまめに水分補給することが重要です。そして、予想最高気温をチェックしておいて、真夏日は特に警戒してください。

そのほかの屋外での暑さ対策として、日焼け止めを塗るなど直射日光から肌を守ることや、涼しく汗を乾かしやすい服装、サングラス、汗を拭くタオルなど、準備しましょう。

天候の急変

夏は地上気温の上昇とともに急速に積乱雲が発達することが多く、穏やかな気象条件だったのが、突風、雷、豪雨といった危険な現象に変化することがあります。事前にその日の気象チェック、それも数日前の週間予報だけでなく、前夜や当日朝など直前の予報をチェックしておいて、このような現象が発生した時には安全に屋内などでやり過ごせるよう、考えておきましょう。

そして、よく晴れていて積乱雲の発達する可能性があるような日の活動中は、全天の様子を監視して山の裏などから濃い雲がわいてこないか注意し、遠雷が聞こえたりしたら、急いで活動を止めて避難する準備をしましょう。

最近ではスマートフォンや現地ショップのPCによるリアルタイムの情報取得を活用したパイロット間の連携も大切です。ぎりぎりまで活動を続けてしまったために、危険な現象が起こっている中で撤収作業を行う、ということにならないよう注意してください。

機材への配慮

強い直射日光に飛行機材を長時間さらしていると、翼やハーネスを構成している合成樹脂素材が紫外線で劣化

し、強度が落ちていきます。

特に劣化しやすいハーネスの薄い生地やパラグライダーのキャノピーなど、日差しの強い夏の日中には、活動に必要なとき以外は清潔な日陰に置いておくようにしましょう。いきなり劣化ということではありませんが、長年の間には機材寿命に差が出てくるので、気を付けてあげましょう。

草むらの虫や地上の湿気にも注意が必要です。緊急用パラシュート内に虫が入り込んでつぶれたり、パラシュートコンテナを直接濡れた地面に押し付けて湿気を中に入れてしまうなどで、いざというときに緊急用パラシュートが機能しないという事態にならないよう、また、ハーネスを清潔に保ち安心して快適にフライトできるよう、気を付けてください。

古い技術、古い機材の問題

スカイスポーツの進歩と現状

スクールで教える飛行技術、パイロットの使用する飛行機材は常に進歩しています。また、スカイスポーツに求められる安全性は以前よりさらに高いものとなりました。

これに対して現在でも重大事故の発生は続いている。その多くが経験年数の長いパイロットによる事故です。そして重大事故の多くが離着陸で発生しています。その原因は離着陸の飛行技術の不充分と使用機材の不適切にあります。

高い離着陸技術の必要性

離着陸事故を防ぐには、健全な飛行判断、離着陸場の整備と並んで、何よりも個々のパイロットの離着陸技術の完成度の高さが必要です。何百回、何千回やっても事故になることのない技術の高さが必要です。無風や強めの風・横風、あるいはちょっとしたミスや不運にあっても確実に離着陸する能力を養い、保っていかなければ、危険なリスクを負ったままです。

経験者の問題点

よく言われ続けていることで、山で飛ぶようになるともう練習場には行かず、山飛びだけでは離着陸の技術を習熟・維持する機会が減って下手になる、という問題があります。

さらに練習を始めた時期の古いパイロットは、そもそも教わる技術やその習得の認定レベルが今よりも低かったのではないか、という問題があります。

実際は習得する環境によっていろいろな違いがあり、また、その後のパイロットの活動環境によっても大きな差が出てきます。そこで、パイロット個人が自分の離着陸技術の正しい評価を知り、向上させる機会を持つことが、重要になります。

最新技術の習得を安全に行う

パイロット個人が自助努力で離着陸練習するのではなく、より良い最新技術、安全な練習環境は得られません。

せっかくのリハビリ練習が重大事故になる例も絶えません。高い判断能力を持ち最新技術を身に付けたインストラクターの下で新たな練習コースを受講するべきです。そのための手間と経費を惜しむべきではないでしょう。

リフレッシュコース

離着陸技能の劣化した経験者の問題と並んで、しばらく飛んでいないパイロットの復帰リハビリの場合も、インストラクターによるチェック、サポートを受ける必要があります。

他国の例ですが、スカイスポーツの歴史の長いアメリカのUSHPA(ハンングライダー・パラグライダーの協会)の場合、ブランクのあるパイロットに対して、インストラクターによるリフレッシュコース受講が推奨されているだけでなく、パイロットとしての会員登録を3年間更新しないと、一度発行を受けた技能証の効力が停止され、技能の再検定を受けなければなりません。

適切な機材の選択

これも今では経験者によく見られる問題となりました。

古い機材でも、高い技能を持ったパイロットが適切に整備された機材で安全にフライトを楽しむ場合はもちろん問題ありませんが、時間とともに整備・調整が少しづつ劣化してきた飛行特性の

難しい古い翼を、以前から使っていたというだけで、これを使用するのはリスクがあります。

整備調整に問題がなかったとしても最新の機材の飛行特性レベルの高さに比べると、今となっては安全性の高さに違いのある例も目立ちます。

さらにパイロットの離着陸技術の問題が重なれば、そのリスクは大きなものとなります。

さて、一般的な経験者の離着陸技術劣化の問題に加え、年齢による危険性の増大という問題があり、これも個人差が大きく、インストラクターのチェック・サポートが必要な点です。そしてとっさの操作や判断で無理が利かなくなってきたら、より許容度の高い機材を選択して、安心してフライトを楽しむようにすることが重要です。

自由な飛行環境の維持

ハンングライダー、そしてパラグライダーは40年、30年前の創成期から、一般的な個人が手軽に空を飛ぶことのできるスポーツとして注目され、多くの人の夢をかなえてきました。そのことは今も変わりません。しかし社会的に自由に飛ぶことを許されている環境を維持していく上でも、事故はあってはならないものです。特に近年はスカイスポーツの事故に対して厳しい目が注がれています。

今までで飛んでいたと、今では防ぎ得るリスクを背負ったまま、あるいはその意識もないままのフライト活動は、もう許されないです。

特に経験の長いパイロットは、最新の飛行技能の習得・リフレッシュ、より良い機材の選択に取り組む必要を忘れないでください。そしてそのための手間と経費は惜しまないでください。



基礎技術が劣化していないか、機材の進歩についていかるか……自分の力を客観的に見て安全飛行を続けたい。

■長崎がんばらんば国体PG大会 長崎県ハング・パラグライディング連盟

長崎県では今年10月より「長崎がんばらんば国体」が開催されます。正式競技前に「デモンストレーションとしてのスポーツ行事」として、大村市ではパラグライディング大会を実施する運びになりました。

大村市は日本で初めての海上空港ができた所で、人口は96,000人の市です。大会が開催される琴平スカイパークは標高330m、TO-LD間の高低差は250mと、ちょっと小振りではあります。が、ティクオフは公園内にあり、駐車場から歩いてわずか30mというフライトエリアです。ティクオフには3機広げるスペースがあり、風は西風メイン。晴れたら大村湾より安定した海風が入ってきます。目の前には工業地帯もあり、サーマルもいい感じで入ってきます。メインLDは100m×30m、すぐ隣の河川にサブ



琴平カップ2013より。皆さん、おいでください!

LDとして30m×200mのスペースがあります。

ロケーションよし、エリアよし、人よしの素晴らしいところ、琴平でのパラグライディング大会に、皆さんおいでください。スタッフ一同お待ちしております。

【開催要項】

日時:2014年9月13日(土)10時から

*予備日9月14日(日)

会場:長崎県大村市雄ヶ原町(琴平スカイパーク内)琴平展望所パラグライダー離陸場、大村市原町原町パラグライダー着陸場

参加資格:JHFのパラグライディングB級技能証以上(B級者は教員の推薦が必要)及びそれに準ずる技能証を有する者でJHFフライヤー登録有効者で長崎県連が認める者

競技内容:アキュラシー

参加人員:50名(先着順 定員になり次第締め切り)

参加費:2,000円

振込先:親和銀行(普通)

口座番号 1410819

口座名 長崎県ハング・パラグライディング連盟

申し込み:2014年8月8日までに申込書を郵送(申込書は<http://www.nagasaki-kokutai2014.jp/kokutai/events/demospo>よりダウンロード

送付先:長崎県ハング・パラグライディング連盟

長崎県大村市野田町52番地 小川方

■杉山名誉会長が青森県から表彰

青森県ハング・パラグライディング連盟

青森県連名誉会長の杉山丕氏が、平成25年「青森県スポーツ・レクリエーション奨励賞」を受賞しました。この賞は「地域又は職域において、引き続き10年以上スポーツ・レクリエーション活動の企画・指導に当たり、その普及・振興に尽くした者」に青森県から与えられるもので、杉山氏は同賞等を受賞する方々を代表して、青森県教育委員会教育長から受賞しました。

杉山氏は1988年にパラグライダー活動を開始、現在77歳、現役教員です。青森県連の教習検定委員長も務め、会員の指導・検定・普及活動に活躍中。これから夢は「この素晴らしいスポーツを普及させたい。世界の山々も飛びたい」とのこと。



青森県奨励賞授賞式に臨んだ杉山氏。

JHFの動き

アキュラシー&クロスカントリー PG日本選手権の開催地を決定

二つのパラグライディング日本選手権の開催地と日程が以下のとおり決まりました。

参加申し込みなどの詳細はJHFウェブサイトのPG競技委員会のページをご覧ください。

□2014年パラグライディングアキュラシー日本選手権in獅子吼

7月26日(土)~27日(日)

石川県白山市の獅子吼エリア

□2014年パラグライディング日本選手権in池田山

10月10日(金)~13日(祝)

岐阜県の池田山フライトエリア

JHFの動き

埼玉スカイスポーツフェスティバル

ハング・パラの体験や展示を

今秋10月12日(日)10:00~16:00に、埼玉県熊谷市の妻沼滑空場で「埼玉スカイスポーツフェスティバル2014(仮称 SSF2014実行委員会主催)」が開催され、JHFは協賛参加します。

複座グライダーによる子供の体験搭乗や模型飛行機教室、熱気球の係留浮上、滑空機曲技飛行、マイクロライト機の展示飛行などが計画されており、JHFは以下を予定しています。

- 1.展示テントでのハング・パラの紹介
- 2.割り当て時間における、ハング・パラの展示飛行(熟練パイロットとフリートーリングによる中高度デモフライトを検討中)
- 3.セーフティートーシステムによるハング

体験飛行(事前申込)

4.トーリング利用のパラ初心者教室浮遊体験(事前申込)

ブラッシュアップセミナー

今年度はパラグライダーも

2013年度に安全性委員会の提案により、ハンググライディングパイロットを対象とした、ブラッシュアップのための安全セミナーを開催しました。今年度はパラグライディングパイロットを対象に同様のセミナーも開催する予定です。詳細が決まり次第、JHFウェブサイト等でご案内します。

ベテランの方が基礎技術を学び直す、ブランクのある方が錆落としをするいい機会です。ぜひご参加ください。

アジアビーチゲームズ

アキュラシー参加選手決定

11月14日(金)～21日(金)にタイのプーケットで第4回アジアビーチゲームズが開催されます(アジアオリンピック評議会主催)。エアスポーツ部門のパラグライディングアキュラシー競技に、岡芳樹、川村眞、古田岳史、小松理樹各選手が日本代表として出場することが決まりました。厚い声援をお願いします。

詳細は、大会組織委員会公式サイト ASIAN BEACH GAMES PHUKET 2014 Thailand の SCHEDULEとSPORTSでご覧ください。

「身近で気軽なJSFF」を目指して

2014年度の日本学生フライヤー連盟

JSFF理事長 上原 征大(横浜国立大学)

全国のフライヤーの皆さん、お久しぶりです! 今年からフライヤーになられた方、初めまして! 今年度日本学生フライヤー連盟(JSFF)の理事長に就任しました、横浜国立大学4年生の上原征大と申します。昨年度務めた関東地区理事の経験を生かし、学生ならではの目線からフライヤーの活性化に取り組んでいきます。精一杯頑張りますので、一年間どうぞよろしくお願いします。

JSFFの活動

今年度のJSFFのスローガンは「身近で気軽なJSFF」です。

「JSFFが何をしている団体なのかフライヤーなら誰でもわかっていて、かつ気軽に誰とでも交流できる団体にしたい」という思いが込められています。Facebookの利用やJHFレポートへの投稿などによりJSFF自体の知名度は向上していると自負していますが、その実態を肌で感じられている方はまだまだ少ないと思います。

私たち学生は空を飛ぶこと出会い、感動し、技術を向上させながらどんどん自分の世界を押し広げていきたいと考えています。毎週末、全国各地で学生フライヤーが切磋琢磨しています。



左から今年度副理事の豊山瑛人(東京工業大学4年)、理事長の上原征大、副理事の岡本貴大(立命館大学4年)



す。しかし「学生」という枠にとらわれ、社会人フライヤーの皆さんとの交流が薄かったり、社会へ出ると同時に空の世界を「卒業」してしまったりする学生も少なくありません。「これはもったいない!」と思い、6月上旬にWeb上で現役学生と元学生フライヤーを対象にアンケートを実施し、分析したところ「卒業」の要因は「経験エリア数が少ないことによる勤務地への不安」であるとわかりました。この要因に対処しうるものが学生大会とツアードであると考え、今年度はより注力して企画、運営していきます。

ホームエリアはもとより、それ以外のエリアでも積極的に活動していくことで、学生フライヤー間だけでなく社会人フライヤーの皆さんとの交流も生まれ、学生生活後もフライし続けられるような環境作りに貢献していくと考えています。

今年度のイベント予定

今年度開催予定の大会、合宿は以下の通りです。

[ハンググライディング]

- ・nasa Student Cup(茨城県板敷山)
9月2～5日
- ・ビギナーズカップ(滋賀県荒神山)
秋もしくは春
- ・ハンググライダー学生選手権
(和歌山県龍門山)2月

[パラグライディング]

- ・尾神岳Student Cup
(新潟県尾神岳) 8月19～21日
- ・新人戦(山形県十分一山)11月
- ・パラグライダー学生選手権
(茨城県足尾山) 3月

[合同合宿]

- ・砂丘合宿(鳥取県鳥取砂丘)
8月26～29日
- ・朝霧合宿(静岡県朝霧高原)
9月8～10日

以上の大会以外にも、各地区でイベントを企画運営し、それぞれ活発に活動しています。

社会人フライヤーの皆さんには、年齢や経験に関係なく、「先輩」として学生フライヤーの活動を見守っていただけると幸いです。これからも私たちJSFF並びに学生フライヤーを、どうぞよろしくお願いします。

お問い合わせ先

日本学生フライヤー連盟

jsff.toiawase@gmail.com

(競技に関すること)

jsff.kyogi@gmail.com

Facebookページ

<https://www.facebook.com/pages/日本学生フライヤー連盟/>

437234113030344



左&上:今年度4月20日に行った多摩川河川敷体験会から。

2014年欧洲レポート

報告:JHF教員・スクール事業委員／安全性委員／補助動力委員 伊尾木 浩二

今年で3年継続してDHVなど連盟、組織、企業への訪問を行ってきました。連盟ならではの情報、EN試験や事故に関することなどの概要をお知らせします。またインストラクター等へさらに詳しい最新情報を伝えていく考えでいます。

EN認証テストの変化

6月3日 Air Turquoise社

EN認証テストを行っている1社であるAir Turquoise社を2度目の訪問。昨年はタイミングが合わず、2年ぶりの訪問となる。代表のAlain Zoller氏とEN認証テスト内容の変化について話し合った。

試験項目も変化している。今はBIGアシメトリックコラップス(75%)の潰す面積のライン引きが異なり、安全なクラス(ローアスペクト)の機体ほど潰す面積が増えより難しい試験となる。また、ローテストではライン合計14G過負荷試験が来年には16Gに変わるという。グライダー性能向上と共にグライダーにかかる負荷も大きくなることからこのようになつたのだろう。その分、パイロット側への体の負担も生じてくるので、フライト姿勢に対する体への影響も今後、考慮していく必要はあるだろう。

また、Dクラス2ライナー試験の内容を詳しく聞かせてもらった。公開できない試験映像も見せていただき、アディショナルラインを使ったBIGアシメトリックコラップスでは、激しいテスト内容を確認するとともに、2回転ほどのツイストでも余裕をもって回復させるパイロットの高い技術レベルにも驚かされた。特に感じたことは、決して易しいテストではなく、パイロット側に装着されたカメラ映像でも操作方法を確認しテストが行われており、地上カメラだけではないことも理



2年ぶりのZoller氏。

解できた。

Zoller氏は「常にパラグライダーとのフィーリングが一番大切である」と言う。フィーリングを正しく身に付けるためには、パラグライダーをいかにしっかりと操るかが大切。体重移動はしっかりと行っているか、ブレーク操作は適切か、などを練習を含めて見直すことが重要だろう。日本のパイロット証を持っている方、20年以上飛ばれている方でも、パラグライダーを適切に操っているかどうかをインストラクターに見てもらいアドバイスを受けることは、安全なフライトを続けるために最も必要であると思う。

Saftyクラスの制定

6月4日 DHV事務局

ドイツの連盟事務局を訪ねるのは3年連続の3度目。Klaus Tanzler事務局長、安全教育顧問Karl Slezak氏といろいろな話をすることができた。

3年前に訪問したときから話題に上がっていたDHV独自のSaftyクラスが遂に発表された。DHV会員からの「正しい機体の性能、操作レベルが知りたい、そして安全なグライダーを適切に選択したい」という要望が発端。機体性能の幅は広がる傾向にあり、EN基準だけでは判断は難しい。そのため、市場シェアの80%と言われるくらい多く販売されているEN-A/EN-Bクラスの2クラスを、Saftyクラスの5段階に細分化したも



DHV Saftyクラスのテストの様子。



Tanzler事務局長(左)、安全教育顧問Slezak氏と。

の。この細分化する為の基準は、DHVが独自に開発したデータロジヤーという計測器で分類している。パイロット側とキャノピー側に取り付けられた二つのセンサーから得た旋回角度、G、沈下率、高度などあらゆるデータを基準に分類するということになる。また、テストで使われる機体はメーカーから渡されるものではなく、市場で売られているものを買取るという。そのため、メーカーが試験用に改造を加えることはまずない。

パイロットは、EN-A/EN-Bクラスの機種の中でも大きく差があるということを知っておくべきだろう。また、自分の機体がこのクラスのどのレベルなのかをもう一度、しっかりと把握するべきだと思う。

EN認証機関の統一性

6月5日 PMA

PMAとは、Paraglider Manufacturers Associationの略であり、簡単に言えばパラグライダー工業会のような組織。2年ぶり2度目の訪問である今回は、メーカー側のまとめ役を行っている副会長のGuenther woeri氏(swing社代表)と会談を行った。

EN規格制定の発端となったワールドカップにおける事故に対して、どのように競技の事故リスクを減らしていくか検討し、機体のリミットテストも行ったPMAは、現在、EN認証機関である3社の統一性を図るために、いろいろな働きかけを行っている。簡単な問題ではなく時間も要することだろう。欧洲は多くの国が集まっており、各国の歴史、習慣などの違いから、まとめていく難しさがあるとwoeri氏は言う。北ヨーロッパと南ヨーロッパでは、考え方も大きく分かれるのだと。

PMAは、フライヤーがより安全な機体に乗るために、ある意味、各メーカーの安全に対する基本概念を統一するような動きをする組織もあると思うので、今後の発展に期待したい。

ブラックアウト防止の訓練施設

6月6日 G-Force trainer設置施設

ドイツにG-Force Trainerが設置されたと聞き、Flugschule-Hochries代表のRobert Niederreuther氏を訪

ねた。

ヨーロッパでは4基目、ブラックアウト防止を目的とするこのトレーナーシステムを使えば、Gがかかった時の状態を誰でも体感することができる。最近ではSIVトレーニングを行う前に、G-Force trainerを使ってトレーニングをすることも増えているという。最近、ヨーロッパで潰れが原因でブラックアウトに陥り墜落、死亡事故が発生したという情報も入っている。

日本にはこの機器はないが、万が一の時には適切な対応を行いブラックアウトに陥らないよう、スパイ럴時の目線や姿勢、呼吸法、Gがかかった状態でのレスキューパラシュートの引き出しに対する影響など、予備知識を持つことが重要だと思う。

ブラックアウトとは：

プラス方向に大きなGがかかるにより、心臓より上にある脳に血流が少くなり完全に視野を失うこと。グレイアウトは、即時の失神等には繋がりにくいため、ブラックアウトほどの危険性の高い状態ではないが、脳内血流の偏移はヒューマンエラーを起こしやすい状態を作るものであり、大変危険である。

スパイ럴による毎秒10mの沈下でかかるのは3Gと言われる。5Gで毎秒18mの沈下率に相当。昔の滑空比6



G-Force Trainerで、Gがかかった状態を体験してみる。

のパラグライダーに比べ、今の滑空比9のパラグライダーでは、Gのかかり方も増している。

ブラックアウトの予防策

たとえばスパイ럴を行う時などは事前に対応ができる。

- ①足は開いて伸ばさないこと。必ず、ハーネスの面にふくらはぎを当てる。足をクロスしても問題はない。太ももは開き気味でハーネスをホールドする姿勢が良い。

これは、あくまでもGがかかる時のみ



G-Force Trainer体験後、Niederreuther氏と。

の姿勢である。ポッドハーネスは対象外。
②脳に血液を循環させやすくするため呼吸法が重要。息を大きく吐くことにのみ集中する。

磯本容子、ハンギングライディング世界選手権者に！

6月21日から7月5日まで、フランスのアヌシーにおいて、第13回女子世界選手権、第19回クラス2世界選手権、第6回クラス5世界選手権、第1回スポーツクラス世界選手権と、四つのFAIハンギングライディング世界選手権が開催され、日本から13名のパイロットが参加。磯本容子選手が世界選手権を勝ち取り、日本女子チームが団体優勝に輝きました。どちらも日本ハンギングライディング史上初の快挙です。

女子世界選手権

[個人]

- | | |
|---------------------|------|
| 1位 磯本 容子 | |
| 2位 Dieuzeide-Banet | フランス |
| 3位 Schwiegershausen | ドイツ |
| 5位 野尻 知里 | |
| 11位 桜井 さやか | |
| 13位 谷吉宇 瑞子 | |

18位 内田 秀子

20位 鈴木 樹子

[国別]

1位 日本

2位 フランス

3位 ロシア

2位 ドイツ

3位 フランス

4位 日本

スポーツクラス世界選手権

[個人]

1位 Alonzi フランス

2位 Zin フランス

3位 Ujhelyi ハンガリー

[国別]

1位 フランス

2位 オーストリア

3位 ハンガリー

10位 日本

* * *

クラス5に出場の小林正和選手が競技中の事故で7月3日に亡くなりました。たいへん残念です。ご冥福をお祈りします。

クロスカントリーのススメ

緻密に、大胆に、確実に、そして安全に、「妄想」を現実のものにする。

今春のクロスカントリー(XC)シーズンも多くのクロカンパイロットたちが、日本一、自己記録更新、隣りのエリアなど、それぞれの目標達成をめざして飛び立ちました。

JHFのXCリーグは今年も熱い風が吹いています。パラグライディング首位の中里勝は、3月～5月に5本のフライトを申請。合計309.4km、最長は3月9日、茨城県足尾山～福島県白河市の100.5km。女子1位、総合4位の中目みどりは3月・4月の4本で266km。最長は4月13日、足尾山～福島県須賀川市の116.6km。リーグ最長距離は、五位渕孝幸が足尾山から福島県郡山市まで飛んだ132.7km。

一方、ハンググライディングでは、4月26日、田中元気が足尾山から山形県南陽市まで201.3kmのXCに成功。2005年に氏家良彦が213.7kmという大記録を打ち立ててから9年。久々の200km超フライトです。(同日、クラス5の塩野正光は足尾から210.4km飛行。)

昨年は「西高東低」だったXCリーグ、今年は東が逆転した形です。では、リーグのトップに立つ3パイロットにXCのおもしろさ等を語ってもらいましょう。

中里 勝 ▶ 努力が報われ感動!

XCは、自然と風を上手く利用できるかどうかにかかっている。エリアはパンパンなのに距離が伸びなかったり、逆に渋いのにスムーズに進めたり、出て見ないと分からぬところもある。日頃からエリアで、低高度から諦めずに粘って上げなおす、ランディング場所(自分で下ろせる場所)を確保しながらギリギリまで飛んでみる、そして4、5時間は集中して飛べるような体力、精神力を身に付けておこう。

前日、GPS、バリオ、無線など準備万端。天気図を見ながら、どこまで行けるかな、どのコースかな……まだ見ぬ風景、妄想が広がる。

先輩たちとコースを下見したときにGoogleEarthで見た風景を、自分で飛んで目で見る、初めは何となく「あそこかなあ」、高度が上がると「地図みたい、ん、確かにそうだ」と、今までの努力が報われ感動がこみ上げてくる。

足尾山からのXCでは、必ずnasaスタッフにXCに出ることを伝え確認してから、まずは燕山で高度を上げる。雲底までつけるのが基本。最低1,400mあれば大丈夫だろうと思うが。最初は近くにいた先輩や仲間たちがどんどんいろいろな方面に散っていく。しかし、めざす方向はほとんど同じ。周りの機体、風向きを見ながら、無線を入れながら皆で、できる限り遠くへ。

高峰山(第1目標)を越える、茂木道の駅(第2目標)、ここまで来ればXC大成功。XCのもう一つの楽しみ、地元のB級グルメ、苺アイス、羽二重苺(お土産を忘れずに)を食べながら楽しく回収される。本当に美味しいからここまでがXC目標の人もいる。少人数だけれど。

少しずつ距離を伸ばし、那珂川ドッグレッグまで来て上げたら、中間目標の烏山(約43km)を目指す。ここまでには回収ルートが確立していて何人も飛んで来ている。烏山LD以外で下ろす場所は田んぼが多い。田んぼにランディングしてしまったら、まだ水が入っていないとはいっても他人の土地、先ずは近くの人に丁寧に事情を説明して、持ち主が分かれば謝りに行く。たいがいは、大丈夫。家に招かれ、お茶、お菓子等が出てくることが多い。きちんと笑顔で話そう。地元の人とのふれあいも大事。優しい人が多く、畑の野菜をお土産にもらった人もいる。



目標は日本新記録。nasa XC研究会を立ち上げたり、川地塾で腕を磨いて、頑張っています。

100kmの目標はクリアしましたが、その先は、いつになることか。しかし焦らず、確実、安全に。

XCは楽しみも多いが、それなりのリスクも多い。安全にランディングして、無事に家に帰るのがXCの基本です。



第1目標の高峰山まであと少し。

中目みどり ▶ 第六感までフル活用

ソアリングを覚え、ただ飛ぶだけで楽しかった頃。とにかくサーマルで高く上げることだけが目的になってしまい、上げた後どうしたらいいんだ?と途方に暮れ始めたときに出会ったのがクロカンでした。

飛び慣れたエリアは、まずここで上げ、次にここで…という教科書通りの単調な飛びになってしまいがちでしたが、知らない景色を、雲を追いかけ、鳥や地形に目を凝らし、五感どころか第六感までもフルに活用して飛び続けるのは、本当に刺激的です。

降りたところでは地元の人が歓待してくれ、駅まで送ってくれたり、時にはお茶をごちそうになったり。

日本は本当にいい国です!

クロカンをするようになってから、エリア内での飛びも変わったと思います。

ですが最初のころは「戻れないから行っちゃえ」的な、相当危なっかしいフライトを「クロカン」と称していました。先輩が行くからと安易についていくのは絶対にやめてください。

クロカニヨン達の自慢話を聞きながら、まだ見ぬ土地に思いを馳せ、回収のお手伝いや航空写真を見ながら地形を確認し、脳内妄想を膨らました上で、実際にその場所を上空から見られたときには「ここが噂に聞いてたあの場所か!」と本当に感動します。

周りの人が長距離飛んでるのに、自分は手前で降っちゃった…なんて悲しむ必要はありません! 少しずつ距離を伸ばしていくけば、何度も「自己記録更新」の喜びを味わえるんですよ♪

クロカンシーズンになると、天気図見ながらソワソワしてしまう……。そんな季節を、みなさんも味わってみませんか?



飛んで行った先で地元の人と知り合うのも楽しみ。



話に聞いたり地図や写真を見て「妄想」していた景色が眼下に広がり、ただ感動! 撮影:中目みどり

田中元気▶最高の気分!

茨城県の足尾山から山形県の十分一山まで飛ぶ。みんなで話してた夢だ。行けたら面白いよね。エリア間を結んでみたいね。

2014年4月26日、ティクオフで交わした言葉は「山形で会いましょう!」だった。

クロスカントリーで行ったことがあるのは140kmで郡山近辺まで。一昨年そこまで行った時に、一緒に飛んでいた友人が猪苗代湖畔まで飛んでいった。迎えに行って、湖畔で見た磐梯山をよく覚えてる。

「ここを超えたい」

それからずっと考えていたことだった。

当日、ティクオフして北へ。高峰山、茂木町、烏山町と順調に進む。高度は最高2,000mぐらいで進んだ。何度も飛んで来て何度も見ている景色。風は弱くどこへでも飛んでいける気分!

馬頭町へ進んだところで強いシンクで下がってしまう。足尾から50kmで降りたくない。

足尾からのクロスカントリーでは降りるところは豊富で、ランディングに困ることは少ない。その安心感は最後の最後まで高度を距離に変えられるし、最後までサーマルを探しに行けるということ。安全に楽しくクロスカントリーに出るためには、ちゃんと降ろせるところを確保しながら飛ぶこと。そうすれば落ち着いて進んでいける。

まだ高度のあるうちに雲の下を狙って移動する。雲の下でサーマルにヒット

し、何度かやり直して再度雲底2,500mへ。ここから先は低くならず、東に見えるのは八溝山、西に見えるのは那須岳、那珂川沿いに北上して行き、白河の街が見えてきた。

これがクロスカントリーの醍醐味だ。普段は見えない景色や遙か遠い土地が見えてきたときのワクワク。最高の気分だ。

白河の街で雲底3,000mになり、北西方向にクラウドストリートが続く。前々から行きたいと思っていた猪苗代湖の方向に真っ直ぐ雲が続いている! 今日がチャンス! 行けと言われているとしか思えない!

順調に北西に進み猪苗代湖が見えてきた。見えてきただけじゃない、行ける!

来た! 猪苗代湖だ! 綺麗な水面に北に見えるは磐梯山。

ここまで来たら磐梯山をトップアウトしてみたい。時間もまだ15時だ。磐梯山の上に着いてサーマルにヒット! 足尾から150km。ついに念願の磐梯山トップアウトだ!

南には猪苗代湖、東には安達太良山、北には桧原湖や森、西には雄国沼が広がる。この景色を見てみたかった。ただ小国エリアから飛んで見るんじゃない、足尾から飛んで来て、見たい景色だった。

涙が出そうなほど嬉しくて、叫んでいた。

さあ、時間はまだある。高度もある。ここまで来たら行けるところまでどこまでも

行こう。

北側で3,300mまで上昇し、福島県と山形県の県境となる山を越える! 見える景色は雪がまだまだある。北東には平野が。でももう夕方で太陽の力は弱く、空気の流れが静かだ。このままランディングか。

でも弱いリフトはまだある。ここはどこだ? 山形に入っているはず。

サーマルで上げながら見る景色に、見覚えが出てくる。十分一だ! 橋、山、焼却場、行きたいと思っていた場所。あこがれの場所。あそこまでなんとしても行きたい。弱いサーマルを繋ぎながら進み、やってきたのが山形県赤湯の十分一!

足尾から195km。到着したときは17時15分。最後の最後までサーマルを捕まえて上げるが、もう終わりの時間。足尾から200kmの位置までなんとか距離を伸ばしてランディング。十分一山に上がる山上道の入口の脇に広がる田んぼに降りたのが17時35分。

足尾から飛び初めて6時間。長いようで、あっという間に終わってしまったクロ



足尾から十分一まで201.3km。あっという間だった。



行けと言われているとしか思えない。前へ!



十分一で笑顔いっぱいの記念撮影(右が田中)。

スカントリー。足尾から十分一までの夢のフライトだった。



普段自分のエリアで飛んでいて、あまり遠出しない人にとって、クロスカントリーをすることは不安なことかもしれません。どうやって飛んだらいいかもわからないし、どこで上がるかもわからない。どちら降ろせるのか、そこにどうやって降りればいいのかがわからなくて不安なんだと思います。

でも、そんなに恐れずに、普段飛びながら考えていることをどこでも実践すればいいだけです。

サーマルを探すには、雲や地形や当たりをよく見ること。

降りるときには、風向きに気をつけて、降ろせる広さと高度処理ゾーンを確保し、できるだけ障害物の少ない場所を選ぶこと。

クロスカントリーに重要なことは速度や滑空比ではないんです。フォローに

乗って落ち着いてゆっくり飛べばいいんです。

自分の記録を少しでも伸ばしたり、行きたい所に向かって飛んでいたり。見たい景色、行きたい土地、自分の考えている通りに飛んで遠くまで!

いつものエリアを飛び立って、新しい世界が目の前に次々と開けていく、そんな醍醐味に溢れているのがクロスカントリーです。

「アキュラシー」へのいざない

JHFパラグライディング競技委員／教員・スクール事業委員 水野 良信

ランディング場にあるて降りるだけなのに、なかなかうまくできない。

もう！ くやしい！

ランディング場に降りればいいだけのランディングとは、ちーと違ってくる。ただ的があるだけなのに。

オリンピックに一番近い？

簡単にいかないところに目をつけ競技になったのがパラグライダーのアキュラシー種目。世界選手権も行われていて、競技ルールもしっかりしている。スカイスポーツのなかでオリンピック競技に一番近い種目であることも事実。

アキュラシーは、ゴルフやアーチェリーと同じ再現性を高める競技なのでやればやるほど上達します。競技に参加し

て最初からうまくできる選手は、そうはいません！ みんな失敗をして悔しがったり落ち込んだりしながらうまくなってきた。

仲間で競技に参加すると、失敗も喜びも分かち合える分、楽しさも倍増しますね！ そんなことで、JHFアキュラシーリーグの競技に今年からチーム戦が加わりました。「一人ではなく仲間で競技を楽しもう、チームでうまくなろう」が目的です。

それとアキュラシー選手の勲章ともいえる、0（的の中心）を踏んだ選手を称える『ZERO』ステッカー（下の写真）を作りました。「優勝はできなかったけど0踏んで『ZERO』ステッカーもらえたから今回は満足」と思える秀作です。今

は子育てでお休み中のパイロット、矢野佐知江さんのデザイン。みんながリーグの盛り上げに参加してくれています。

的の中心を狙ってランディングする……シンプルだけど奥の深いアキュラシー競技を、ぜひ体感してみてください。チーム参加はもちろん、個人参加も大歓迎です。

チームで競技に参加を！

私がアキュラシーを始めたきっかけは、怪我で遠ざかっていた競技を再開しようと、20何年か振りにアキュラシー大会に参加したことです。やるからには本腰を入れて取り組みたいと思い、2012年にスクールでチームを作り、リーグ戦に参加しています。



2013年パラグライディングアキュラシー日本選手権in南陽より。



第2回アキュラシーアジア選手権より。
初代アジアチャンピオン岡芳樹選手。



アキュラシーだけの練習はほとんどしませんが、スクーリングの合間に縫って、リッジリフトの中でグライダーをエネルギー・ッシュに振り回しグライダーをコントロールする「ワガ」的のフライトをします。「蝶のように舞い、蜂のように刺す」人とグライダーが一体となって動く様は躍動的で、本来人間が持ち得なかつた3次元に飛ぶ感覚を鍛えてくれるからです。

1987年から長くインストラクターをしてきて大切に思うことは、空を飛ぶために身に付けなければいけない基本動作があるということ。その動作は「ちゃんと・しっかりと」した飛行感覚を養ってくれます

す。実は怪我を起こしやすい人の動作は共通しており、基本動作が身に付いていないと、小さなミスが大きなトラブルになってしまいがちです。

基本動作を習得するのは、B級からノービスピロットのとき。その時期こそパイロットとして一生の財産を作る一番大切なときと言われています。

私のスクールの場合、アキュラシーリーグの大会にノービスピロット証から参加できることは、二つの大きな効果をもたらしました。

ひとつは、個人ではなくチームとして活動する意義をもてるようになること。も

うひとつは基本の大切さを実感できることです。

ぜひ、スクール教員の方々にチームでアキュラシー競技に参加してほしいと思っています。

* * *

アキュラシーリーグの詳細は、JHFウェブサイトの常設委員会「PG競技委員会」のページでご覧ください。リーグへの登録もできます。また、イベントスケジュールもお知らせしています。この7月にはアキュラシー日本選手権を石川県白山市獅子吼高原エリアで開催の予定(26日・27日)。

第3回JHFハンググライダー・パラグライダーフォトコンテスト 作品募集!

JHFは、ハンググライダーやパラグライダーが写真を通じてできるだけ多くの人々の目に触れることが普及のために必要であると考え、フォトコンテストを開催しています。

第2回では、フライヤー以外の方も含め全国から248点の作品が寄せられました。まことにありがとうございます。今回、第3回もハンググライダー、パラグライダーの楽しさを伝えられるような作品、多くの方々からのご応募をお待ちしています。

【募集要項】

主催者: 公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

テーマ: ハンググライダー、パラグライダーの楽しさ、美しさを表現した写真作品

募集部門:

1. 空撮部門

ハンググライダー、モーター・ハンググライダー、パラグライダー、モーター・パラグライダーを利用して空中から撮影した写真

2. 地上撮影部門

上記の1に該当するもの以外

各賞と賞金:

両部門共通

・最優秀賞 1点 賞金10万円

空撮部門

・優秀賞 2点 賞金各3万円

・入選 数点以内 賞金各1万円

地上撮影部門

・ハンググライダー賞 1点 賞金3万円(ハンググライダー、モーター・ハンググライダーを中心とした作品)

・パラグライダー賞 1点 賞金3万円

(パラグライダー、モーター・パラグライダーを中心とした作品)

・入選 数点以内 賞金各1万円

審査員: 別途ご案内します。

応募締切: 2014年9月1日(月)必着

審査結果発表: 2014年10月初旬(JHFホームページ上で発表し、入賞者にはメールで連絡します。)

応募の条件:

1. プロ、アマ、年齢を問いません。

2. 未発表の作品に限ります。

3. 応募に伴う費用は応募者の負担とします。

応募の方法:

・作品は印画紙(プリント)でご応募ください。スライド、フィルム、データの形式による応募はできません。

・銀塩フィルムでもデジタルカメラで撮影されたものでも応募できます。

・プリントサイズは、六つ切りからワイド四つ切、A4ノビ程度まで。

・カラー、モノクロ、ソフトウェアにより加工されたものも応募できます。

・入賞作品についてはデジタルカメラデータ等を提出していただきます。

・応募用紙に題名(ふりがな)、撮影場所、撮影年月日、氏名(ふりがな)、天地方向ほか必要事項を記入し、JHF事務局・フォトコンテスト係宛に作品と一緒に送ってください。

応募用紙はJHFウェブサイト(<http://jhf.hangpara.or.jp/>)「第3回フォトコンテスト作品募集」からダウンロードしてください。

見る人が楽しくなる、飛びたくなる、そんな作品をお待ちしています!



第2回JHFフォトコンテスト優秀賞「海風を受けて」 撮影:平田晃一

JHFからのお知らせ

■ PG教本基礎技術DVD頒布中

基礎技術DVD「JHFパラグライディング教本基礎技術」、続いて第2弾「ティクオフとランディング」を頒布しています。

「JHFパラグライディング教本基礎技術」には、JHF教本のA・B級からクロスカントリーまで各課程を修了するために求められる基本的なフライト技術について、ベテラン教員による模範演技を収録しています。実際の飛行での操作を、複数の方向から近接撮影したものが2画面で表示され、各操作での動きをはっきりと見ることができ、判りやすく表現されています。アライザーコントロールでの引きしろとブレークコードでの場合との違いや、A・Bストールを行ったときの翼の変形の様子などもわかります。

第2弾は、フライトの基本中の基本であるティクオフとランディングを収録しており、フロントライズアップの基本から場周アプロートによるランディングまで、各操作のポイントがつかみやすい内容になっています。

価格・入手方法:

頒布価格はそれぞれ1枚1,500円(送料込)で、お申し込み30枚毎に1枚追加してお送りします。入手ご希望の方は、最寄りのスクールでご購入いただくか、JHFウェブサイトにて注文書をダウンロードのうえお手続きください。

■ JHF備品を貸し出しています

JHFでは下記備品の貸し出しをしています。ご希望の方は「JHFウェブサイト」→「JHFのご案内」→「無線機その他備品貸出」より貸出依頼書をダウンロードし、必要事項を記入・入力して、FAXかメールでお申し込みください。備品の返却にかかる送料はご負担をお願いします。

◇自動体外式除細動器(AED)

公認大会やイベント主催者に無料で貸し出し。申込条件:消防署や日本赤十字社等のAEDを使った救命法講習会を受講した方がいること。

◇ポロジーメーター

パラグライダーキャノピー等のエアーフィルを計測する機械。スクール・クラブ等を対象に貸し出し。貸出期間は2週間以内。貸出料5,000円。

あなたのデジタル無線機は登録済みですか?

デジタル無線機をご使用の皆様、無線機の登録手続きは、もうお済みですか?

JHFでは、ハンググライダー・パラグライダーの飛行中に使用する無線機として、デジタル無線機を推奨しています。

現在、国内で飛行中に使用できるデジタル無線機「携帯型デジタル簡易無線機登録局(上空利用)」は、スタンダード(STANDARD)のVX-291SとVXD450Sの2機種です。これらは簡単な登録手続きだけで利用できます。

既に購入、使用されている皆様も、必ず登録手続きを行い、利用料を払って運用してください。

登録申請をしないまま無線機を運用すると、不法無線局として処罰対象になります。うっかり登録忘れのないよう、ご確認をお願いします。

*各地区通信局では警察と共同で「不法無線局」の取り締まりを行っています。不法無線局を開設したり運用したりすると、1年以下の懲役または100万円以下の罰金に処せられます。

◇スカイレジャー航空無線機

スカイスポーツ専用の周波数で使う無線機(465.1875MHz)。JHF会員を対象に、大会やイベントでのご利用のために貸し出し。貸出料は1,000円/台。申込条件:ご利用者の中に「第三級陸上特殊無線技士」免許を持ち、JHF無線従事者に登録している方が1名以上いること。

◇アルコール検知器

大会やイベント主催者に無料で貸し出し。前夜の飲酒がフライトに影響することもあります。事故防止のために新たに導入しました。ご利用ください。国際航空連盟(FAI)もアンチドーピングの禁止物質にアルコールを指定しています。

■ 住所変更届けのお願い

JHFからお送りした登録更新案内やJHFレポートが「転居先不明」等で多数戻って来ます。また、登録更新のための会費送金手続きをコンビニでされた方、会費を口座振替にされている方へお送りした会員証も多く戻って来ています。コンビニから送金の場合は、払込票に新しいご住所をご記入いただいても控えが事務局に届きません。銀行口座振替の場合も住所変更の連絡は来ません。

住所を変更された方は、お手数ですが、下記項目をメール、FAX、郵便などでご連絡ください。

フライヤー会員No./お名前/変更後のご住所/連絡先電話番号/メールアドレス

■各種お申込みやお問合せは

JHF事務局へご連絡ください。

公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

〒114-0015

東京都北区中里1-1-1-301

TEL. 03-5834-2889

FAX. 03-5834-2089

E-mail : info@jhf.hangpara.or.jp

<http://jhf.hangpara.or.jp/>

*賛助会員からのお知らせを同封しています。また、東京都、神奈川県、岡山県在住の方にはそれぞれ東京都、神奈川県、岡山県の各連盟からのお知らせも同封していますので、ご覧ください。

東日本大震災被災地復興応援

プロジェクト

「空はひとつ」

東日本大震災被災地への義援金を引き続き募っています。

◇義援金振込先

三菱東京UFJ銀行(銀行コード0005)

巣鴨支店(店番号770)

口座番号 普通 0017991

口座名義 公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

JHFレポート206号

発行日:2014年(平成26年)7月20日

発行:公益社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟(JHF)

編集:JHF事務局

印刷:株式会社美巧社